

高知大学の教育の質を保証するため授業外学修を確保しよう！

高知大学 大学教育創造センター

なぜ授業外学修が必要か？

●ディプロマ・ポリシーを達成するために

「質保証」という言葉が、大学教育のキーワードとなっています。「質保証」とは、大学がディプロマ・ポリシーに基づいて教育を行い、これを達成した者に学位を授与するということが着実に行われていることを、大学自身がまず説明できるようにしてくださいという要請です（内部質保証）。それをもとに、認証評価において客観的な検証を行います、という道筋がつけられました。

●授業外学修時間の確保と教育改善

もっともわかりやすい「質保証」に向けた取組は、教育課程の改善や授業改善とともに、授業外学修時間の確保ということになります。

グラフはアメリカと日本の大学生の学修時間を比較したものです。両国の大学生の事情が異なることを考慮しても、日本の大学生の学修時間をもっと確保できれば、ディプロマ・ポリシーの達成度も向上すると考えてよいでしょう。いささか短絡的ではありますが、日本の大学生の学修時間の少なさについては、みなさんも実感されていることではないでしょうか。

■大学生の学習の時間（1週間当たり）



(出典：http://toyokeizai.net/articles/-/13446, 2013)

●授業⇒テスト⇒単位修得？

学生は毎回欠かさず授業に出席する傾向が強くなってきました。真面目に授業を受け、試験に合格すればその授業の単位が修得できるものと思っています。大学生になって、自由な時間が増えたことも手伝って、高校までの授業と同じ感覚で授業に出て、余程のことがない限り無事に卒業できると思っているのではないのでしょうか？


大学の授業はそういうものではない、ということをお早い段階で学生に理解してもらうことも重要です。授業の単位を修得するためには、相応の時間が必要であることを、学生に対して是非説明してください。

●授業外学修時間を確保するためには？

これまで、授業外学修時間の確保ということは「単位の実質化」という側面から語られてきました。大学設置基準をクリアするために授業外学修時間を確保しなければならない、といった議論を越えて、ディプロマ・ポリシーを達成するために、よりフレキシブルに、学生にもっと学修を促す工夫をしていく、ということが求められています。

●予習・復習・宿題の時間を示す

本学のシラバスでは授業外学修時間を示すことができます。まず、各回の授業内容に即して、どのような予習・復習にどのくらいの時間をかけてほしいかを記載することから始めるのが有効です。学生はそれを指針に授業外学修を進めることができるようになります。

 **事例**：理工学部のア先生は、1回の授業範囲からの課題に加えて、次回の予習をレポートとして毎回課しています。「これに最低〇分かけて欲しい」ということを表示することで、学生はどのくらいの学修が求められているのか具体的に知ることができます。

●グループ課題のための活動・準備も授業外学修！

課題探求実践セミナーのような授業では、課題解決のためのプロセスに多くの時間が必要となります。そのためには、授業外の時間にグループで集まって話し合いをしたり、フィールドワークや調査を行うこととなります。これも授業外学修にあたることを学生にもよく説明することで、こうした授業の成果も向上していきます。

授業外学修時間を増やすための工夫

●TA・SAの活用

以下には授業外学修時間を増やすための工夫の事例を示しますが、なんといっても問題なのは、課題や小レポートへのフィードバックです。特に大人数の授業では、すべてに目を通してフィードバックすることは困難です。

TAやSAを効果的に活用することで、これに対応できる部分もあるでしょう。レポート・小テストの整理や簡単な採点業務（TAが望ましい）などを、任せられる範囲でTA・SAに任せることができれば、負担はある程度軽減できます。ただし、TA・SAには、非常勤職員として公平・公正な態度で業務に当たることをよく理解させてください。

●シラバスを活用する

シラバスには、各回の授業内容に加えて評価のスケジュールや授業外学修について記載する欄があります。ここを活用します。たとえば、4回目の授業の冒頭で2～3回目までの授業内容を踏まえた小テストを行うのであれば、3回目の授業外学修の欄に、「2回目、3回目の授業の復習」と書きます。さらに4回目の評価のスケジュールの欄に、「2回目、3回目の授業内容に関する小テスト」と書きます。2回目、3回目の授業内容の欄もできるだけ詳しく書いておきます。たとえば教科書を使う場合は対応する章番号やページ数、配付資料を使う場合は資料番号などを記載するとわかりやすいです。こうしておけば、学生が事前に準備することが可能になります。

またレポートを課す場合は、評価のスケジュール、授業外学修の欄にレポートのテーマや内容、可能ならループリック評価シート等評価基準を書いて、シラバス公開と同時に見えるようにしておきます。そうすることで学生は事前に準備をすることができ、授業外学修につながります。これらの情報を詳しくシラバスに書くことで、テストの成績が上がり、レポートの質が向上する効果が期待できます。

Tips 4 と Tips 6 にもいろいろな工夫について書いていますので、参考にしてください（→大教HP）。

●授業方法を変える：反転授業を取り入れる

最近の学生は人前で恥をかくことを恐れます。手を挙げて質問しないのは、他人にどう思われるかを恐れてのことです。これを逆手にとって人前で発表するとか、準備してきたものをみんなに見せるなどの活動を事前に予告しておくことで、しっかり準備してきます。宿題を出さなくても、予習してくるようになります。これを簡単に実現するのが反転授業です。

小学校で行われている反転授業では、15分程度の動画教材を準備し、事前に自宅でみてくるといいうプロセスが含まれますが、大学生には必ずしも動画教材は必要ありません。学生のレベルにあった教科書、または教科書に替わる教材があれば十分です。

シラバスに授業のスケジュールとして、予習しておくべき範囲を明記します。授業は予習を前提としますので、演習から入ります。試験問題を使った試験紙法が取り入れやすく、失敗しない方法です。

◆教科書は必須です

反転授業では予習が前提となりますので、教科書は必須です。教科書が無い場合は、教科書に替わる教材を準備する必要があります。毎年使っているプリントやプレゼン資料があれば、事前に準備して配付しましょう。毎年最新のトピックを扱っている場合は、1週間だけ準備を早く済ませて次回の授業の資料



を配付するようにしましょう。予習をしてくるための教材や範囲を明確にすることで、予習の計画も立てられ、モチベーションも維持します。

◆正解が無い問題もあります

正解が無い課題や、正解が複数ある問題もあるでしょう。そのような場合は教科書に書いてあることを正解として設定するか、どのように書いてあれば何点というようなルーブリック評価シートを準備して評価基準を示します。そうすることで正解が無い問題でも、試験紙法を使って反転授業にできそうです。

◆個別試験を先に行う方法

予習範囲についての試験問題を個人で解いてもらいます。この個別テストは回収し、採点の後個人に返します。成績を積算し、成績評価に加えますので、定期試験で行うテストと同等の扱いにします。

個別試験回収後、再度同じ問題をグループで解いてもらいます。この成績も積算して成績評価に加えます。グループ内での相談はOKですが、教科書、ノート、携帯電話で調べる、他のグループのメンバーに聞くなどはカンニング行為です。グループ試験も回収、採点し、次回返します。

グループ試験終了後、応用課題をグループに課したり、最小限の解説を行ったりします。最後にふりかえりを行います。

◆練習問題を先に行う方法

小林昭文先生が物理の授業で実践している方法について「アクティブラーニング入門」という本にまとめられています。参考にして下さい。

練習問題を5問程度準備し、助け合い自由で制限時間内に全問正解を目指します。

練習問題終了後、確認テストの問題を配り、個人で解答させます。全員正解が目標です。最後にふりかえりを行います。

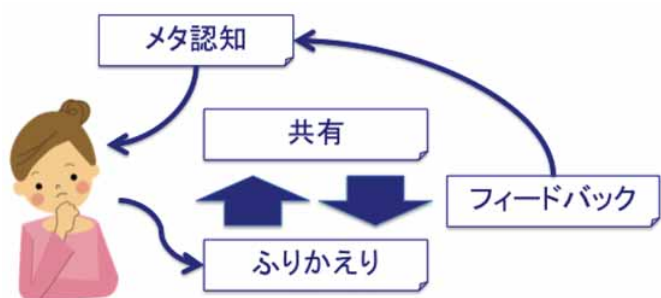
●ふりかえりを充実する

ふりかえりの時間をとることで、授業中のグループ活動への貢献に前向きになり、結果的に授業への準備をしっかりとってくるようになると期待できます。授業内容をふりかえることで、記憶にもよくとどめることができるようになり、成績を上げる効果もあります。そのためにも、効果的なふりかえりが必要です。

リフレクションペーパーやミニツツペーパー、大福帳などを使っている先生も多いことと思います。これが代返の温床となり、時々問題になります。代返を防ぎながら効果的なふりかえりを行い、成績アップに結びつけましょう。上手にふりかえりができることは、学生にとって一生の宝物になります。

◆グループを作る

できるだけ属性がばらばらになるようにグループを作ります。とはいえ専門の授業であれば、そもそも受講生が同じ専攻の学生だけということもありますよね。その場合でも男女、学年を混ぜることはできそうです。このようにして作った4人または5人のグループを固定し、座席指定します。



◆ふりかえり⇒共有⇒フィードバック

まず個人でふりかえり、文章化します。おおよそ書き終えた頃にグループで共有するよう指示します。一人1分で、誰かがタイムキーパーを行うよう指示して行えば5分程度で終わります。その時間の中で、あるいは改めて時間をとってお互いにフィードバックする時間をとります。自分のふりかえりと他者からのフィードバックのギャップを知ることで、自己の客観視ができるようになります。

◆代返を防止する

各グループの代表にリフレクションペーパーやミニッツペーパーをメンバーの数だけ取りに来させます。こうすることで、余分に持って行く学生はぐっと減ります。

ふりかえり、共有、フィードバックの後にグループで集めさせ、グループの代表に持って来てもらいます。こうすることで、代返などの不正行為を行うことは難しくなります。

●課題探求型授業で授業外学修を増やす

キャリア支援の要素が強い授業では、教科の内容と同じかそれ以上に諸能力を身につけ、育てることの重要性が高いと思います。そのような授業では、課題探求型の授業方法を取り入れることで授業外学修が増え、能力開発が可能になります。

学生をグループ分けして、課題を与えるか課題を自分たちで決めさせます。さらにグループ課題のプロセスを考えさせます。何をどこまで明らかにするのか、どのような方法で、どのようなスケジュールで行うのかを決めさせます。たいてい授業期間をめいっぱい使って解決しようとするので、失敗した場合に再度挑戦し、解決できる期間も含めたスケジュールになるようにアドバイスしてください。



◆授業では集まったときにしかできないことをする！

課題が決まったら、活動の中心は授業外です。授業中にグループ課題に関する話し合い等の時間はとらないようにします。授業時間は集まったときしかできないことをしましょう。たとえば、各グループ進捗状況をポスターにまとめ、World Caf  でブラッシュアップします。何回かに1回はプレゼン形式で行っても良いでしょう。必要なら（グループワークが上手に行えないなら）チームビルディングゲームをします。また、プレゼンを上手にやるための資料作成のポイントや、プレゼンのポイントなどを修得するワークを行ったり、ふりかえりをしっかり時間をかけて行ったりします。

このようにすれば、グループ課題の解決は必然的に授業外に行うこととなり、教育の質保証ひいては、単位の実質化への一策となります。

●moodleを使って反転授業も可能です

高知大学では、大学連携事業のためmoodleを導入し、KULASに登録されている全ての授業で、コース（授業題目）、担当教員、受講生が登録されており、利用可能です。本年講義を行っている様子をビデオ撮影し、それをそのまま動画教材として担当授業のコースにアップすれば、今年度は復習用または欠席学生の対応に、次年度は反転授業教材として使えます。

参 考：

- ・高知大学Tips： <http://www.kochi-u.ac.jp/daikyo/publication/tips.html>
- ・「アクティブラーニング入門」、小林昭文、産業能率大学出版部。
- ・高知大学moodle： <https://moodle.cc.kochi-u.ac.jp/>
- ・大学教育創造センター： <http://www.kochi-u.ac.jp/daikyo/>

発 行：高知大学学務課総務係： gm04@kochi-u.ac.jp